

第 39 回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時：平成 28 年 8 月 26 日（金）16 時 30 分～18 時 10 分

会場：東北大学災害科学国際研究所 1 階 多目的ホール（仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

テーマ：「内陸活断層型の地震と災害」

1. 16:30～1650（発表 20 分）

タイトル：内陸活断層型地震の地盤と構造物の被害について

話題提供者：森口周二・寺田賢二郎（地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野）

要旨：地震によって地盤や構造物は大きな被害を受ける。被害の発生形態は地震動の大きさ、周波数特性、継続時間などに強く依存する。特に、海溝型地震と内陸型地震では地震動の特性が大きく異なるため、特徴的な被害形態も大きく異なる。2016 年熊本地震や過去の地震の被害事例などを具体例として示しながら、地震動と地盤・構造物の被害の関係について説明する。

2. 16:50～17:10（発表 20 分）

タイトル：都市圏に伏在する活断層と被害地震 —濃尾平野西縁・養老断層系の活動史と AD1586 天正地震・AD745 天平地震を例に—

話題提供者：丹羽雄一（災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野）

要旨：大都市近傍に伏在する活断層は、ひとたび活動して大地震が発生すると、人間活動に甚大な被害を引き起こし得る。本発表では、このような大都市近傍に伏在する活断層について、名古屋都市圏に位置する養老断層系を例に断層の活動史および、歴史記録にある 2 回の被害地震の地震像について既存研究や発表者の実施した研究などを踏まえて紹介する。

3. 17:10～17:30（発表 20 分）

タイトル：活断層と地震の連鎖：地震ハザードの経時変化

話題提供者：遠田晋次（災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野）

要旨：活断層による地震発生確率は、平均活動間隔と最後の地震からの経過時間で決められる。しかし、これは断層運動が準周期的に繰り返されるという前提に基づく。長野県北部地震を引き起こした神城断層など、最近のデータをみると、その前提自体が間違っているようだ。活断層が密に分布する日本列島では、断層間相互作用も強く、単純な地震繰り返しモデルは通用しない。むしろ待機状態の活断層は多く、熊本地震のように、先行する地震活動などをきっかけに活動するのではないだろうか。その意味で、地形・地質データを頼りにした活断層評価だけではなく、地殻変動や地震活動を加味した地震ハザード評価が求められる。

4. 17:30～18:00 質疑／総合討論（30 分）

5. 18:00～18:10 事務連絡等

司会・進行：木戸元之（災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野）